

護衛艦「おおなみ」の体験航海で感動！ 海上自衛官になり艦のスペシャリストを目指す！

神奈川県綾瀬市高校生 田村 一昭

神奈川県地方協力本部厚木募集案内所（所長 酒井一海尉）に、入隊予定者対象の護衛艦「おおなみ」体験航海に参加した学生から感想文が届いたので紹介する。

平成28年2月10日、私は神奈川県地方協力本部が支援した入隊予定者対象の護衛艦「おおなみ」体験航海に友人と参加しました。護衛艦に乗って、目の前で艦を動かしている乗員を見たかったです。

横須賀駅に集合し、マイクロバスに乗って横須賀基地へ向かいました。そこには、大きな艦がありました。私達が乗る「おおなみ」です。まず目に留ったのは速射砲です。とても大きく、凄いなあ〜と思いました。艦内には、いろんな部屋がありました。中でも印象的だったのは艦橋内部でした。艦橋内では、周りからいろんな声が届き、それを聞き分けて適切に艦を動かしていました。出航するときの緊張感が私にも伝わってくるのと同時に、隊員がとてもカッコ良くて憧れを持ちました。

私は、今回の体験航海を通じて、現場で見ないと分からない内容も多くあり、入隊前に少しでも現場の空気を味わえて良かったです。私は一般曹候補生で入隊予定ですが、現場の隊員のように、艦のスペシャリストになる為に日々の積み重ねを大切に、どんな状況でも冷静に対応できるように海上自衛官になります。

UH-1J体験搭乗

カレッジ防衛モニター 青木 健史

陸上部隊の作戦は、必ずしも陸上だけで行われるとは限らない。時に隊員たちは、空から作戦地域に舞い降りることもある。多くは空挺降下などを連想するが、それはまた厳しい訓練を要するという。それよりも一般的に用いられ、尚且つ安全性や機動性に優れる手段は、便利なことにこの世に存在する。ヘリコプターである。

2月11日、私はそのヘリコプターに乗る機会を得た。横須賀・武山駐屯地から私は飛び立つことになるのであるが、海上自衛隊のヘリコプター「UH-1J」は私たちを乗せるためにわざわざ立川からやってきたという。

「立川から、今日は強い風だったので割合早く着きました」と、東部方面ヘリコプター隊第2ヘリコプター隊に所属する機長の陸尉は言った。当日は冷たい2月の風がヘリポートに集合した私たちに吹き付ける冬の日であった。

ヘリの概要と、ヘリコプター隊の活動について簡単に説明を受けた後、私たちはいくつかのグループに分けられて搭乗を待った。正直なところ、私は高所恐怖症で、おまけにヘリの安定性というものから信用していないのでその場にいたのである。回転翼機などというものはいかにも原始的な飛行方法に思えたからであった。

しかし乗ってみると意外と悪くない。むしろしつかりとしていて安定しているように感じた。上空は風もそれほど強くなく、冬の澄んだ空気のため、水平線がよく見渡せた。城ヶ島付近で旋回して、沿岸部を武山に戻ったが、陸では交通の往來の様子が小さく見渡せた。東日本大震災などの災害時にはこのヘリで救助者を探したということであったが、見える住宅や車はとて小さく、偵察任務には鋭い観察力を要することが想像できた。ところで、陸上のヘリパイロットは陸上を目印にして飛ぶために海上へ出ると精神的に恐怖を感じるらしい。

「海の上はやはり怖いですか」と聞こうと思ったが、ヘリは次のグループを乗せてまたすぐに飛び立たねばならないらしい。聞くことは出来なかった。次の客人を乗せたヘリは、クルーの隊員たちは、再び空へと舞い上がった。その後ろ姿は、恐怖という文字を感じさせることのない悠々としたものであった。私は、回転翼への不安を、隊員たちへの愚問を恥じた。